



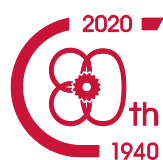
京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部

地域連携報告書

光華女子学園

環境報告書

令和元年度版



華の煌き この未来も

学校法人光華女子学園

Index

地域連携報告書・環境報告書

1. 光華ビジョン 2030 × SDGs	01
2. 光華女子学園の概要	02
3. 地域連携推進センター・環境教育推進室から	03
3.1 学びたい・働きたいをサポートする「リカレント教育」に着手	03
3.2 グレタさんのメッセージに思うこと	03

地域連携報告書

4. 地域連携活動	04
4.1 地域との連携協定締結	05
4.2 葛野自治会連合会との連携	05
4.3 科目「産官学連携プロジェクト」	07
4.4 右京区まちづくり支援制度	08
4.5 学まちコラボ事業	10
4.6 公開講座	12

環境報告書（令和元年度版）

5. エコキャンパスの推進	14
5.1 学園における各種エネルギーの使用状況と廃棄物排出量	15
① 電気エネルギー消費量	
② ガスエネルギー消費量	
③ 水道水使用量	
④ ガソリン消費量	
⑤ 軽油消費量	
⑥ 廃棄物排出量	
5.2 KOKA エコアワード	18
6. 各校園の環境教育・環境活動	22
6.1 光華幼稚園	23
① 野菜の栽培・収穫	
② 秋の自然を求めて	
③ 廃材の再利用	
④ ごみの分別	
6.2 光華小学校	26
① 桂川清掃	
② 水はどのようにしてきれいになるのか	
③ 環境委員会より「節電の呼びかけ」	
6.3 京都光華中学校・高等学校	29
① 生徒会委員会 日々の取組	
② 高校 KSP 環境に関する研究	
6.4 京都光華女子大学・短期大学部	32
① グリーンキーパーによる緑化活動	
② 竹林整備事業への参画	
③ ふろしきから学ぶエコライフ	
④ 災害とリスク・コミュニケーション	
⑤ ブナ原生林ツアー	

地域連携報告書・環境報告書

1. 光華ビジョン2030 × SDGs

数日間、世界の指導者たちがニューヨークの国連本部に集い2030年に向けた新しい地球規模の開発目標を採択しました。SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）です。この目標は膨大な協議の成果であり、我々人類が理想とする姿（17のゴール）を描いています。しかし、最近の報道に注目しますと、平均気温は上昇の一途をたどり、また今なお紛争や貧困に苦しむ国や地域があるのが判ります。世界は前進どころか後退しているのではないかと思うくらいです。SDGsの前身となるMDGs（ミレニアム開発目標）では、2015年までに世界の貧困率を半減させる目標を達成できたとしていますが、これは中国やインドなどの新興国の経済成長によるものと推察されています。つまり、この達成の一方で、環境問題に拍車をかけたと言っても過言ではありません。このような世界情勢の中、SDGs達成のために、現代に生きる私たちが今できることは何でしょうか。

光華女子学園は昭和14年、東本願寺の故大谷智子裏方（昭和天皇妃-香淳皇后-の妹君）の「こうじゅんこうこう仏教精神に基づく女子教育の場」をとの願いによって創立された真宗大谷派の宗門関係学園です。校訓を「真実心」と掲げていますが、これは、み仏の心すなわち慈悲の心、おもいやりの心を意味します。

本学園は2020年9月に創立80周年を迎えます。そして、Society5.0（AIやIoTが席卷する超スマート社会）時代を切り拓き、SDGsの実現を担う光華教育をめざして「光華ビジョン2030」を策定しました。ここには幼稚園から大学・大学院までの一貫教育の強みを生かした、本学園が人と人をつなぎ、地域創生の核となる指針が述べられています。

さて、本年度も各設置校においてさまざまな地域連携活動、環境活動が実施されました。本書には、大学・短期大学部における地域社会と連携したさまざまな活動や、幼稚園による食育を通じた命の教育、小学校における河川敷の清掃活動、そして、学校・高等学校におけるKSP（光華サイエンスプログラム）を通じた環境教育など、本年度の取組の一部が掲載されています。これらの内容は、SDGsの17のゴールのいずれか、あるいは、複数にわたって該当するものがあります。しかし、学齢に合わせたこれらの取組自体は、SDGsという世界のダイナミズムが誕生したから実施したものではなく、このような概念ができるずっと以前から実施してきたものがほとんどです。この点を鑑みれば、SDGsは本学園の進むべき目標のひとつではありますが、これまでの取組の評価指標としても捉えることができるでしょう。

光華女子学園は、これからも地域から信頼される女子総合学園をめざして、教育・研究とともに、社会貢献に取組みます。そして、創立90周年、100周年に向け未来に躍動する学園造りを加速してまいります。

光華女子学園 名誉理事長・学園長
阿部 敏行



2. 光華女子学園の概要

【沿革】

- 昭和14年09月15日 財団法人光華女子学園設立認可 光華高等女学校設置認可
 15年04月01日 光華高等女学校開設
 19年03月11日 光華女子専門学校開設 数学科、生物科、保健科を設置
 20年03月29日 高女同窓会「瀧海会」発足
 22年03月15日 女専同窓会「ふかみくさ」発足
 22年04月01日 学制改革により光華中学校開設（光華高女より）
 22年10月10日 光華女子専門学校保健科を生活科に改称
 23年04月01日 学制改革により光華高等学校開設（光華高女より）
 25年04月01日 光華女子専門学校を光華女子短期大学に移行 文科、家政科を設置
 26年02月28日 学校法人光華女子学園設立認可
 29年04月17日 光華衣服専門学院開設
 39年04月01日 光華女子大学開設 日本文学科、英米文学科を設置（短大文科を移行）
 40年04月01日 光華幼稚園開設
 43年04月01日 光華小学校開設
 62年04月01日 短期大学、家政科に生活科学専攻と生活文化専攻を設置
 平成元年11月15日 総裁大智智子裏方遺浄（83才）
 03年04月01日 真宗文化研究所開設、情報教育センター開設
 05年04月01日 短期大学、家政科を生活学科に改称
 06年04月01日 大学、文学部に人間関係学科を開設
 06年11月22日 光華衣服専門学院廃校
 07年04月01日 短期大学、生活学科に4専攻を設置
 09年04月01日 短期大学、生活学科に栄養専攻を設置
 10年04月01日 光華女子大学大学院開設
 文学研究科（修士課程）、日本語日本文学専攻、英語英米文学専攻
 を設置
 12年04月01日 光華女子短期大学、生活学科を光華女子大学短期大学部 生活環境
 学科に改称
 光華女子大学、日本文学科を日本語日本文学科に改称
 英米文学科を英語英米文学科に改称
 13年04月01日 光華女子大学大学院、光華女子大学、光華女子大学短期大学部、光
 華高等学校、光華中学校を京都光華女子大学大学院、京都光華女子
 大学、京都光華女子大学短期大学部、京都光華高等学校、京都光華
 中学校へ校名変更
 大学、文学部・人間関係学科を改組、人間関係学部・人間関係学科
 を設置
 14年04月01日 短期大学部、栄養専攻、食生活専攻を改組、大学、人間関係学部
 に人間健康学科を設置
 15年04月01日 大学、人間関係学部は社会福祉学科を設置
 16年04月01日 大学院に人間関係学研究所（修士課程）を設置
 京都光華女子大学カウンセリングセンター（人間関係学研究所附属
 施設）開設
 17年04月01日 京都光華女子大学エクステンションセンター開設
 18年04月01日 短期大学部、生活環境学科を改組、ライフデザイン学科を設置
 ライフデザイン学科「地域総合科学科」適格認定
 短期大学部にこども保育学科を設置
 20年04月01日 大学、人間関係学部を人間科学部に改称
 大学、英語英米文学科を国際英語学科に改称
 大学、人間健康学科を健康栄養学科に改称
 22年04月01日 大学、文学部、人間科学部を改組、人文学部、キャリア形成学部、
 健康科学部を設置
 人文学部は文科学科、心理学科を設置
 キャリア形成学部はキャリア形成学科を設置
 健康科学部に健康栄養学科を設置
 23年04月01日 大学、健康科学部に看護学科を設置
 25年04月01日 大学、健康科学部健康栄養学科に健康スポーツ栄養専攻を開設
 地域連携推進センター・環境教育推進室を開設
 26年04月01日 大学、健康科学部に医療福祉学科（社会福祉専攻・言語聴覚専攻）、
 心理学科を開設
 大学院、人間関係学研究所を心理学研究科に改称
 27年04月01日 大学院に看護学研究科を設置
 短期大学部 こども保育学科を改組、大学、こども教育学部 こ
 もも教育学科を設置
 28年04月01日 女性キャリア開発研究センターを開設
 30年04月01日 大学に助産学専攻科を設置
 31年04月01日 大学・短期大学部にリハビリアーツセンターを開設

【学生・生徒・園児数（2019年5月1日 現在）】

大学院	18人
大学	1,890人
短期大学部	199人
高等学校	405人
中学校	121人
小学校	242人
幼稚園	222人
合計	3,097人

【教職員数（2019年5月1日 現在）】

区分	専任等	非常勤等	合計
大学院・大学	101人	163人	264人
短期大学部	10人	15人	25人
高等学校	30人	33人	63人
中学校	12人	6人	18人
小学校	19人	8人	27人
幼稚園	13人	3人	16人
職員	93人	48人	141人
合計	278人	276人	554人

【キャンパス】

光華女子学園のメインキャンパスは、京都府京都市右京区にある西京極キャンパスです。西京極キャンパスには、国道9号線（五条通り）を挟み、北校地に大学院、大学、短期大学部、幼稚園が、南校地に高等学校、中学校、小学校が設置されています。また最寄りの阪急京都線「西京極」駅からは閑静な住宅街を抜け徒歩約7分です。

◆校地面積（2019年5月1日 現在）

北校地	24,481.38㎡
南校地	18,823.00㎡
大原野グラウンド	14,308.00㎡
花の寺グラウンド	14,160.61㎡
合計	71,772.99㎡

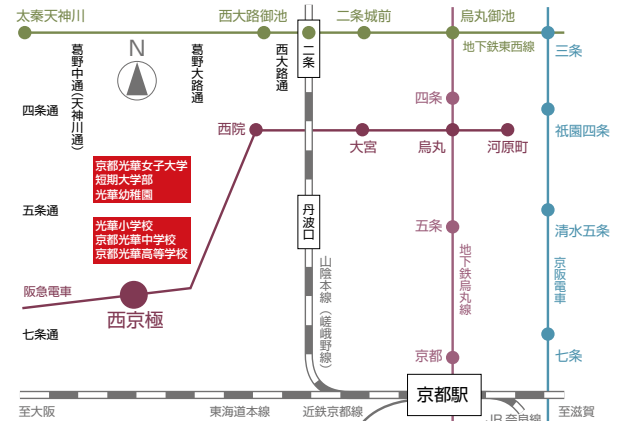
◆校舎面積（2019年5月1日 現在）

北校地	37,345㎡
南校地	23,092㎡
大原野グラウンド	436㎡
合計	60,873㎡

【所在地】

〒615-0882 京都市右京区西京極暮野町38

最寄りの阪急京都線「西京極」駅から住宅街を抜け徒歩約7分



3. 地域連携推進センター・環境教育推進室から

3.1 学びたい・働きたいをサポートする「リカレント教育」に着手

2013年に「地域連携推進センター(CRC)」および「環境教育推進室」が開設されて7年、①市民向け公開講座の開催、②各種団体との連携協定の終結、③地域連携に係る助成制度申請の支援、④科目「産官学連携プロジェクト」の開講、⑤地域イベントへの参画、⑥設置校間での環境教育の推進を継続し、本学が立地する右京区行政から高い信頼と評価をいただけるようになりました。今年度はさらに、「女性キャリア開発研究センター」と協力して、大学の教育特性や知的財産を活かした「リカレント教育」に着手しました。この取り組みは、京都府とも連携し、仕事に復帰したい女性を支援しました。今後も「リカレント教育」の普及に努め、キャリアアップを目指す地域の方や地域企業への貢献を目指します。

右京区では「十年後も右京で暮らそう」をキャッチフレーズに、右京区基本計画を策定しています。その目標には、地域の発展や健康で働き続けることも含まれていることでしょう。2015年度国勢調査の就業状態（京都府）での労働力率は、男性69.9%、女性が49.8%となっています。人生100年時代と言われる現在において男女ともに働き続けることは、心身ともの健康である証であり地域の発展に貢献します。来年度の国勢調査も参考に、女子大学として「地域から期待される大学づくり」への取り組みを推進していきたいと思えます。

地域連携推進センター長
吉田 咲子



3.2 グレタさんのメッセージに思うこと

環境問題に関する今年度一番の話題は、なんと言ってもスウェーデンの環境活動家、グレタ・トゥーンベリさんの国連環境サミットにおける演説ではないでしょうか。16歳の高校生である彼女は、経済成長を優先してきた世界のリーダーたちに対して「絶対に許さない」と、強い口調で今の地球環境問題に警鐘を鳴らしました。彼女の発信したメッセージに対して賛同する人もいれば、世界経済を勉強した上で発言するべきだと、否定的なコメントを寄せる人もいます。このように賛否が分かれるにせよ、ただ一つ明らかなことは、グレタさんは今の環境問題に世界の関心が集まるようにしたことです。若者が中心となり温暖化対策を訴える活動「グローバル気候マーチ」では、ベルリンで27万人、ニューヨークで25万人が参加し、全世界で400万人もの人々がデモを行いました。一方、日本ではどうでしょうか。新しく着任した環境大臣の失言やスキャンダルには注目が集まるものの、肝心の環境政策や環境活動に関心が高まったようにはあまり感じられません。

環境問題解決のためには、環境技術開発、環境法整備など、いくつかの主要な方法がありますが、技術開発や法整備を行う人はもちろん、市民、特に若い世代に対する環境教育が極めて重要です。環境教育推進室では、環境問題に対して深い関心を抱き、環境配慮活動を自然に実践できる人材を育てるために、学齢に合わせた持続可能な環境教育をこれからも推進してまいります。

環境教育推進室長
高野 拓樹



4. 地域連携活動





4.1 地域との連携協定締結

光華女子学園では、地域との連携活動を円滑に継続すると同時に、地域貢献と実学的教育をより発展させていくため、行政他、各種団体と連携協定を結んでいます。ここでは、本学の立地する右京区におけるこれまでの主な連携内容を紹介します。

名称	締結先	内容	協定年月日
葛野学区自主防災会との協定 —大規模災害発生時における 地域協力に関する協定—	葛野学区自主防災会	災害に強いまちづくりを目指す葛野学区自主防災会と安心を共有できる地域づくりを推進するための連携・協力に関する協定。	2010年11月7日
右京区大学地域連携に関する協定	右京区役所 京都外国語大学 嵯峨美術大学 花園大学 京都先端科学大学 立命館大学	右京区役所と本学を含む地域ゆかりの7大学・短期大学（現9大学・短期大学）による、大学の教育活動の活性化、地域住民の安心安全、地域の活性化及び将来必要とされる人材育成に寄与することを目的とした協定。	2011年11月4日 (2015年4月8日 京都学園大学を追加、 2019年立命館大学を追加)
右京区役所、右京消防署と「防災及び災害時支援に関する覚書」	右京区役所 右京消防署	右京区役所、右京消防署と地域防災力の向上と災害時の迅速な支援体制の確立を図る目的で、地域ゆかりの大学・短期大学として締結した協定。	2014年3月8日
京都市教育委員会との相互連携に関する協定	京都市教育委員会	本学と京都市教育委員会による、京都の学校教育のさらなる充実や教育の課題解決に向けた取り組み、双方の教育の充実・発展に寄与するための連携・協力に関する協定。	2015年12月8日
地域の安全・安心等に関する協定	京都府右京警察署	京都府右京警察署と本学が、それぞれの持つ専門分野を活用して相互に連携し、地域の安全・安心及び双方の業務・教育の充実をはかることを目的とした協定。	2017年7月19日

4.2 葛野自治会連合会との連携

今年度は、葛野自治会連合会との連携・交流がこれまでよりさらに活発になり、学内イベントに自治会員が参加する機会と、自治会イベントに本学学生・教職員が参加する機会が大幅に増加しました。

実施・参加した連携活動

実施日	行事	内容
2019年6月13日	葛野学区自主防災会総会	2018年度決算報告、2019年度組織の承認・事業計画・予算の報告など。 今年度初めて招待され会議に出席。
2019年6月29日	葛野学区行政懇談会	右京区役所・警察・消防に対して、地域のインフラ整備等を要望する場。(年1回) 今年度初めて招待され会議に出席。 次年度以降は学園運営部が参加予定。

実施日	行事	内容
2019年8月3日	葛野夏祭り	※葛野学区活性化プロジェクト
2019年10月6日	葛野学区区民体育祭	※葛野学区活性化プロジェクト
2019年10月19日	ハロウィンイベント	※葛野学区活性化プロジェクト
2019年11月10日	葛野学区自主防災会総合防災訓練	地域の集合場所での情報収集、葛野小学校への避難訓練、避難所運営訓練、給食給水訓練に参加。
2020年1月20日	葛野老人連合会新年会	本学言語聴覚専攻の高井先生が「高齢者の『聴こえ』とその対応」というテーマで依頼を受け50分講演。

■ 葛野学区と学生をつなぐ「葛野学区活性化プロジェクト」の活動※

「葛野学区活性化プロジェクト」は、キャリア形成学科の学生を中心に健康栄養学科や心理学科の学生でメンバー構成されていて、大学が地域社会の一員として地域に存在しているながら、学区と学生が離れていることに問題意識を持ち、「葛野学区と学生をつなぐ」ことを目標に、今年度から学生と地域との交流を積極的に推進しています。

プロジェクトメンバーの学生が、葛野自治会連合会が主催している定例会（毎月1回）に出席し、葛野夏祭りや葛野学区区民体育祭にも参加しました。

中でも、10月19日に本学構内で開催されたハロウィンイベントは、学生が企画・運営し、葛野自治会連合会の協力の下、地域の親子連れが多数参加するイベントとなりました。

【ハロウィンイベントの様子】



受付でスタンプラリーの説明をする学生



カボチャのかごの作り方を指導する学生



スタンプ地点毎にかごのパーツを増やせます



スタンプを押す学生



4.3 科目「産官学連携プロジェクト」

地域連携推進センター発足後、同センターが運営する正課科目として、「産官学連携プロジェクト」を開講しました。この科目は、大学の基礎・教養科目に設定されているため、すべての大学生が受講することができます。最大の特徴は、必ず学外団体と連携した体制で推進することにより、社会に存在するリアルな課題がテーマとなっていることです。これらのテーマをプロジェクトとして推進する過程で、学生は考える力やチームで働く力といった社会人としての基礎力を要請すると同時に、現場での実践力を高めます。これまでの連携先は、大手企業、地域の中小企業や商店街、NPO法人、福祉法人、学校など多岐に渡ります。

開講された「産官学連携プロジェクト」

年度	テーマ	連携先	概要
2019年度	地域との連携を通じた学びと成長	京都三条会商店街	京都市中京区にある「京都三条会商店街」と連携した様々なイベント（例えば、ハロウィンイベントやクリスマスイベントなど）を通じて、商店街のさらなる活性化と、様々な人との交流や工夫・経験を通じて、プロジェクト推進能力やコミュニケーション力など社会で必要となる力を養成するプロジェクト型の授業。
	地域との関りを通じた学びと成長	高齢者福祉施設「西院」	高齢者福祉施設「西院」の利用者と一緒に野菜を育て、収穫した野菜を同施設が実施している「おいでやす食堂（月1回開催される地域の親子や施設利用者などが自由に参加できる食堂）」に食材として提供し、様々な人との交流を通じて、考える力や行動力やコミュニケーション力など社会で必要となる力を養成するプロジェクト型の授業。

【産官学連携プロジェクト活動の様子】



学まちコラボ事業公開プレゼンテーションで発表する学生(三条会)



京都三条会商店街ミュージックフェスタの様子（三条会）



地域の方と一緒に楽しむクリスマスイベント☆（三条会）



ベビーカステラを作る学生（西院）



おいでやす食堂でだされるカレーライス（西院）



栽培している野菜（西院）



こどもと真剣勝負する学生（西院）



絵本を読み聞かせる学生（西院）

4.4 右京区まちづくり支援制度

右京区まちづくり支援制度とは、右京区役所が主催する助成事業のひとつです。まちづくりを推進するためには、地域の資源や価値を再認識し、まちの将来像を描き、まちづくり活動を展開していくことが必要です。このようなまちづくりの担い手として、大学は大きく期待されていると同時に、まちを構成する団体のひとつとしての責任もあります。本学は、この支援制度に平成22年度から申請し、これまで数多くの提案事業が採択されてきました。採択された提案事業を推進するプロセスはもちろん、申請書類を提出し、公開プレゼンテーションで審査を受け、活動終了後に最終報告会で発表することは、授業では習得することができない実践的な学びがあります。

採択事業

採択年度	団体名	事業名・事業概要
2019年度	Ugirl（ユーガル）	「親子で仲良くエコバッグ作り！」 私たちの生活に身近な「ごみ減量」の課題に着目し、区民一人ひとりのエコに対する意識を向上させるため、親子で楽しみながらエコバッグを制作するワークショップを実施するとともに、制作したバッグの人気投票のための写真展示を行う。
	京 ♡ しかミーツ	「みんなで鹿肉クッキング」 右京区北部地域での鹿による森林や農作物の被害が深刻化する中、鹿肉の美味しさや料理方法を普及し、駆除された鹿を有効活用するため、地域のイベントに出店して鹿肉料理を販売するほか、児童館などで鹿肉料理の体験会を実施する。



【公開プレゼンテーションの様子】



Ugirl (ユーガル)



京しゃがミーツ

■ 右京区民ふれあいフェスティバルへの参画

本学が立地する京都市右京区では、毎年、「右京区民ふれあいフェスティバル」が開催されています。このイベントは、右京区在住の区民の方々の親睦を深めることを目的とした、15,000名以上の来場者がある一大行事です。右京区内の企業、自治会、NPO法人、学校関係などが出店しており、本学からも多くの学生団体や学科が出店・出演しています。

今年度、本学からは3団体が出店しました。

「Ugirl (ユーガル)」は、キャリア形成学科の1年生4名で構成されており、今年度は初出店でした。エコに対する意識向上を目的に、親子で楽しみながらエコバックを制作するワークショップを実施しました。

「京しゃがミーツ」は、近年のシカ頭数の増加に注目し、少しでもシカ被害を削減するために、捕獲したシカをおいしく食べる鹿肉料理を研究し、日頃の研究成果発表の場として、毎年工夫を凝らした鹿肉料理のブースを出店しています。今年度は、「鹿肉餃子」を販売しました。

「こども教育学部」は、こども教育学部こども教育学科の学生と教員が、木の実や木片を使ったおもちゃやアクセサリ作りのブースを出店し、今年度もたくさんの親子連れで賑わっていました。

右京区民ふれあいフェスティバルへの出店状況(2019年度)

実施日	内容
2019年11月9日	Ugirl (ユーガル)、京しゃがミーツ、こども教育学部がブース出店

【右京区民ふれあいフェスティバルの様子】





こども達に木の実や木片を使った作品作りを指導する「こども教育学部」の学生



作品例



鹿肉餃子



鹿肉巻きを販売する「京しがミーツ」の学生



こどもが作ったエコバッグの仕上げにアイロンをかけて手渡す「Ugirl」の学生 楽しく自分の好きな絵を描くこどもたち



4.5 学まちコラボ事業

学まちコラボ（大学地域連携創造・支援）事業は、魅力ある地域づくりや地域の課題解決に向けて、大学・学生が地域と協働で取り組む事業を募集し、優れた取り組みに対して支援する大学コンソーシアム京都主催の支援事業です。この事業により、実践的な教育・研究機会の提供及び人材育成、地域にとっては大学の知や学生の活力による地域の課題解決や活性化が図られています。

審査は1次審査（書類選考）と2次審査（公開プレゼンテーション）からなり、2次審査を通過すると、採択決定となり京都市長から採択通知書が手渡されます。事業実施中はもちろん、これらの選考プロセスも学生にとっては大変よい経験となっています。

本学では、平成25年度から学生団体がエントリーしています。

採択事業

採択年度	団体名	事業名	事業概要
2019年度	KOKA ☆オレンジ サポーターズ	KOKA ☆オレンジプロジェクト～ 高齢者・障がいのある方の 「食」を支援しよう！～	近隣の施設における高齢者・障がいの者の「食」の支援の現状を学ぶとともに、高齢者や障がいのある方が食べやすい和菓子を開発・紹介・提供する取り組みを学内サロン形式と出張サロン形式で実施する。

【認定式の様子】


認定式にて角川京都市長と



認定式にて記念撮影

■ 採択団体「KOKA☆オレンジサポーターズ」の活動

「KOKA☆オレンジサポーターズ」は、平成28年9月より京都光華女子大学のラーニングコミュニティ「学 Boo」の学生活動グループとして、健康科学部を中心とした学生が参加している団体です。

平成30年度から新たな事業として、近隣にお住まいのシニア世代の方々を対象とした「KOKA☆オレンジサロン」を本学で開催しています。いつまでも好きなものを美味しく食べられるように、口腔機能低下を予防する目的で、口腔・介護予防・頭の体操を行う年間6回連続したサロンで、毎回学生も参加しています。

地域の高齢者の方々にとっては、異世代の学生とのコミュニケーションの場として活用でき、学生にとっては、机上で勉強してきた食べる機能の低下とその支援について実際に学び確認できる機会となるので、双方への効果があり、継続が期待される事業です。

本年度は、学生がユニフォームをデザイン・制作し、より一層地域に「KOKA☆オレンジサポーターズ」の認知度を高めています。

【KOKA☆オレンジサロンの様子】


参加者と談笑する学生



学生がデザインし制作したユニフォーム



介護予防体操や脳トレを参加者と一緒にしています



「舌圧子」を使って舌の体操を紹介する学生

4.6 公開講座

本学では、知的財産である本学教員の専門知識や研究成果を広く一般に公開し、地域の方々に生涯学習の場を提供することを目的として、公開講座（無料）と教養講座（有料）を提供しています。教養講座は、現在、山本登朗氏（本学名誉教授）の「源氏物語を読む」のみ月2回開講しています。

開催した公開講座

実施年度	実施日	テーマ・講題・講師
2019年度	2019年5月11日	京都光華まちづくり講座「簡単だけど、ちょっとこだわり和菓子作り」 濱田 明 美（本学ライフデザイン学科教授）
	2019年6月8日	京都光華公開講座「偶然の出来事と臨床心理学」 今 西 徹（本学心理学科准教授）
	2019年6月29日	京都光華まちづくり講座「“子ども”も“おとな”もゆたかに生きる社会に」 山 田 宗 寛 氏 （児童養護施設「小鳩の家」施設長 社会福祉士 本学非常勤講師）
	2019年7月13日	京都光華公開講座「AI（人工知能）・ロボットは人間の仕事を奪うのか？」 阿 部 一 晴（本学キャリア形成学科教授）
	2019年8月10日	京都光華まちづくり講座 「備えあればうれいなし～是非、知っておきたい“災害時の食”のこと～」 細 井 佳代子 氏 （日本栄養士会災害支援チーム 管理栄養士 本学非常勤講師）
	2019年9月13日	京都光華文化講座（京都アカデミアフォーラム in 丸の内） 「知られざる近代遺産の町、京都 ～世界遺産の陰で存在感を示す明治以降の貴重な文化財～」 佐 滝 剛 弘（本学キャリア形成学科教授）
	2019年9月14日	京都光華文化講座（真宗大谷派 金沢東別院） 「地域の隠れた文化に光を当てる ～登録有形文化財から考える金沢とその周辺の隠れた魅力～」 佐 滝 剛 弘（本学キャリア形成学科教授）
	2019年11月30日	京都光華まちづくり講座 「今、地域で何が起きているか？～高齢者にとって住みやすい地域とは～」 高 橋 岳 大 氏 （京都市梅津地域包括支援センター 社会福祉士 本学非常勤講師）



【講座の案内チラシ】

5. 11 (土) 『簡単だけど、ちょっとこだわりの和菓子作り』
講師 金 潤子 (和菓子職人、2017年「和菓子職人」に選ばれる。和菓子職人として、和菓子作りを通じて、地域活性化に貢献している。)

6. 29 (土) 『子ども“おとな”もゆたかに生きる社会に』
講師 金 潤子 (和菓子職人、2017年「和菓子職人」に選ばれる。和菓子作りを通じて、地域活性化に貢献している。)

8. 10 (土) 『概えればうれいなし〜昼昇、知っておきたい“災害時の食”のこと〜』
講師 金 潤子 (和菓子職人、2017年「和菓子職人」に選ばれる。和菓子作りを通じて、地域活性化に貢献している。)

11. 30 (土) 『今、地域で何が起きているか？〜高齢者にとって住みやすい地域とは〜』
講師 金 潤子 (和菓子職人、2017年「和菓子職人」に選ばれる。和菓子作りを通じて、地域活性化に貢献している。)

2019年度 京都光華 受講無料 まちづくり講座

開催 9月13日 13:00~15:00 (会場 12-322)
10月11日 10:00~12:00 (会場 9-301)
11月1日 13:00~15:00 (会場 12-322)
11月11日 10:00~12:00 (会場 9-301)

京都光華女子大学 京都市中京区西ノ京1-1-1
TEL 075-225-3229 FAX 075-225-3230
E-mail chikuhwa@koku.ac.jp



地域連携活動

地域連携報告書

Kokuhwa 2019年度 京都光華公開講座

6/8 偶然の出来事と臨床心理学
講師 阿部 隆 (京都府立医科大学 心理学 准教授)

7/13 AI(人工知能)・ロボットは人間の仕事を奪うのか？
講師 阿部 隆 (京都府立医科大学 心理学 准教授)

京都光華女子大学 京都市中京区西ノ京1-1-1
TEL 075-225-3229 FAX 075-225-3230
E-mail chikuhwa@koku.ac.jp

2019年度 京都光華文化講座

9/13 知られざる近代遺産の町、京都
講師 阿部 隆 (京都府立医科大学 心理学 准教授)

9/14 地域の隠れた文化に光を当てる
講師 阿部 隆 (京都府立医科大学 心理学 准教授)

京都光華女子大学 京都市中京区西ノ京1-1-1
TEL 075-225-3229 FAX 075-225-3230
E-mail chikuhwa@koku.ac.jp

【講座の様子】



京都光華まちづくり講座



京都光華公開講座



京都光華文化講座 (京都アカデミアフォーラム in 丸の内)



京都光華文化講座 (金沢東別院)

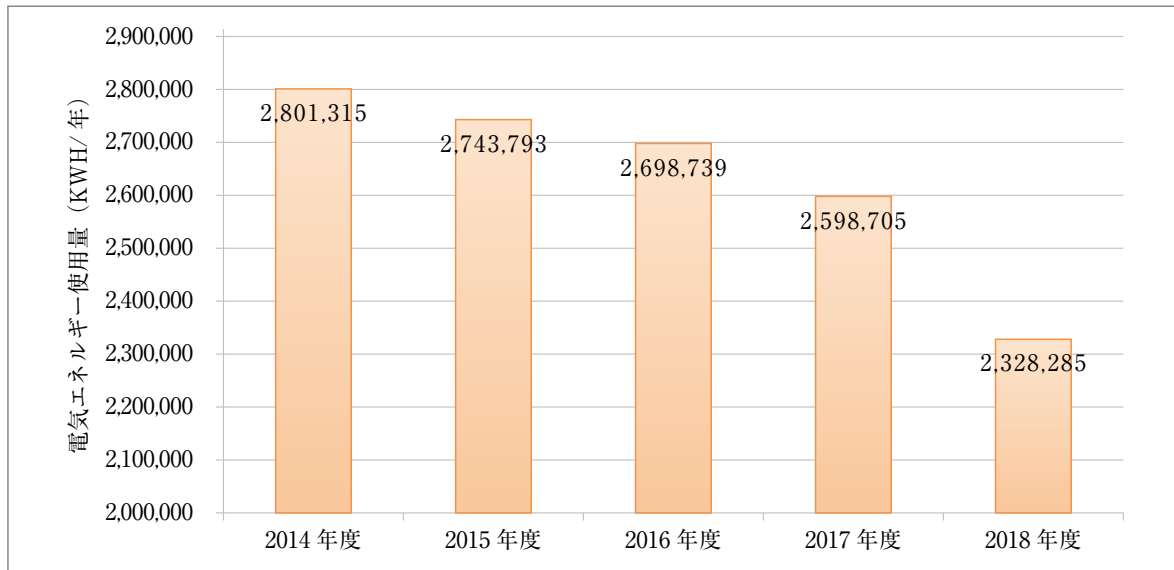
5. エコキャンパスの推進





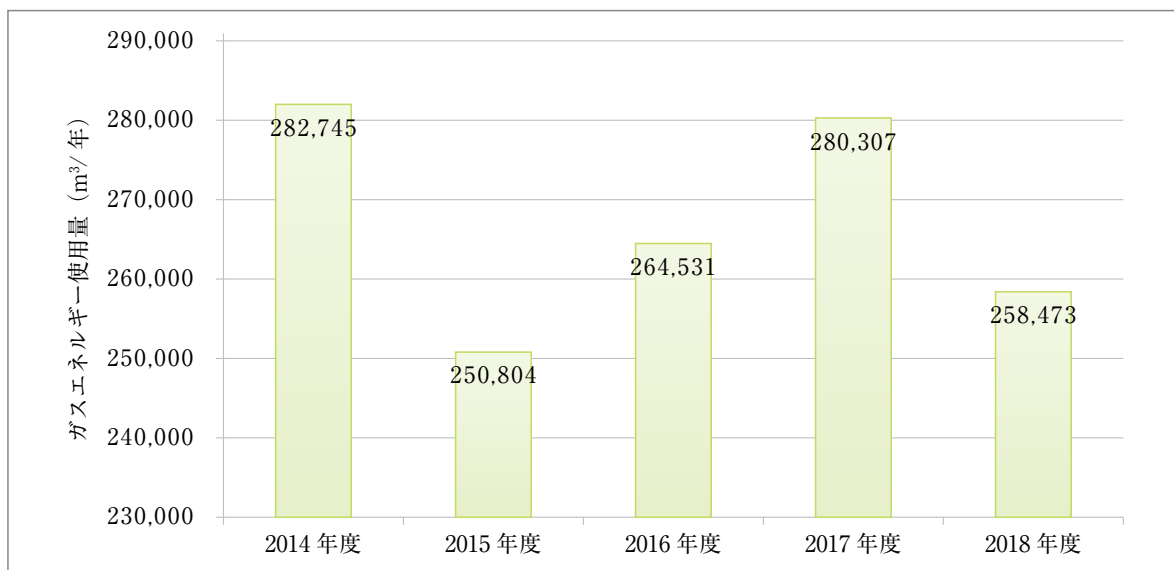
5.1 学園における各種エネルギーの使用状況

① 電気エネルギー消費量



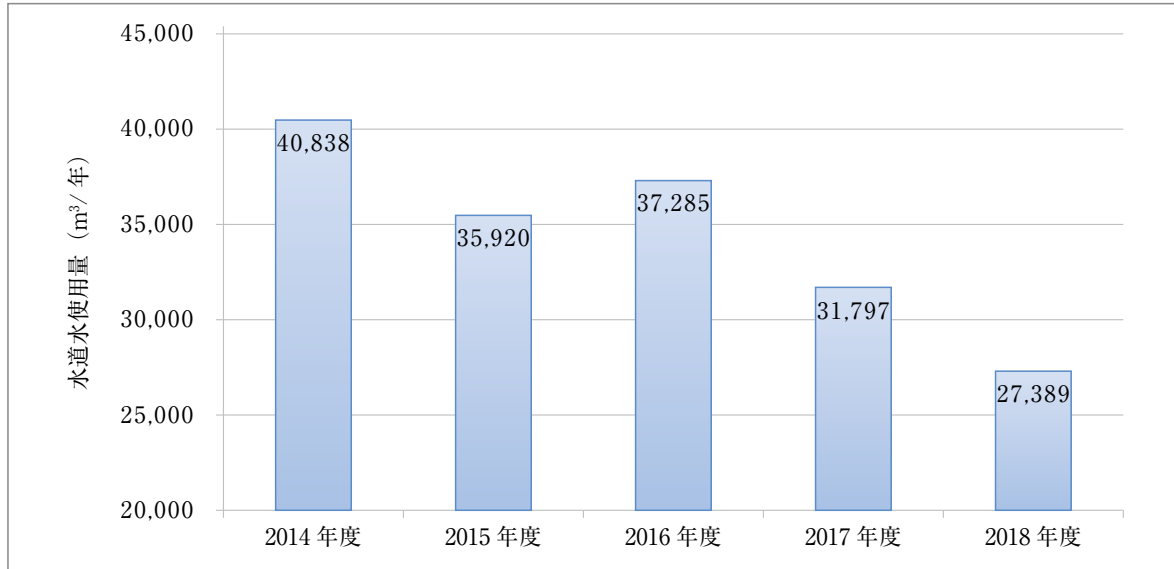
学園全体における過去5年間の電気エネルギー消費量は減少傾向にあります。この理由は、節電対策として高効率型照明器具（LED）の導入の他、クールビズ・ウォームビズの実施が影響していると考えられます。また、電気（以下の、ガスも同様）エネルギー消費量の半分以上が北校地（主に大学）における使用であることから、ここでの使用状況は全体に大きな影響を及ぼします。2018年度の年間電気使用量2,328,285kWhをCO₂排出量に換算すると、約820トン（排出係数0.352kg-CO₂/ kWh）となります。これは前年度と比較し、約320トン削減できたこととなります。

② ガスエネルギー消費量



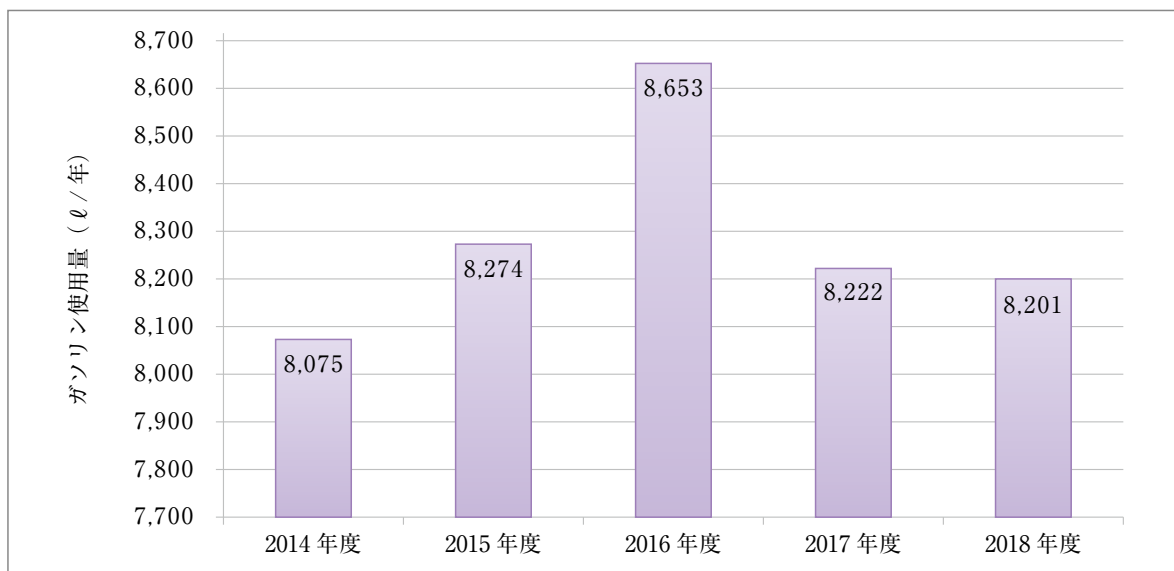
ガスエネルギー消費量については、2015年度から昨年度にかけて上昇傾向にありましたが、2018年度は前年度に比べて約2万2000m³削減することができました。CO₂排出量に換算すると約50トン削減できたこととなります（排出係数2.29kg-CO₂/m³）。大きな要因として、教室等におけるこまめな消灯の他、クールビズ・ウォームビズの実施が影響していると考えられます。

③ 水道水使用量



学園全体における過去5年間の水道水使用量は、2014年度をピークに迎え、その後若干上下するものの、全体として減少傾向にあります。2018年度は過去5年間で最も節水に成功しました。大きな要因として、トイレ改修工事を実施する際、計画的に節水式のものを採用していることや、南校地（小学校・中高校）については蛇口に節水金具を装備したことなどが考えられます。なお、電気・ガス同様に、使用料のうちの半分以上は北校地（主に大学）となっています。

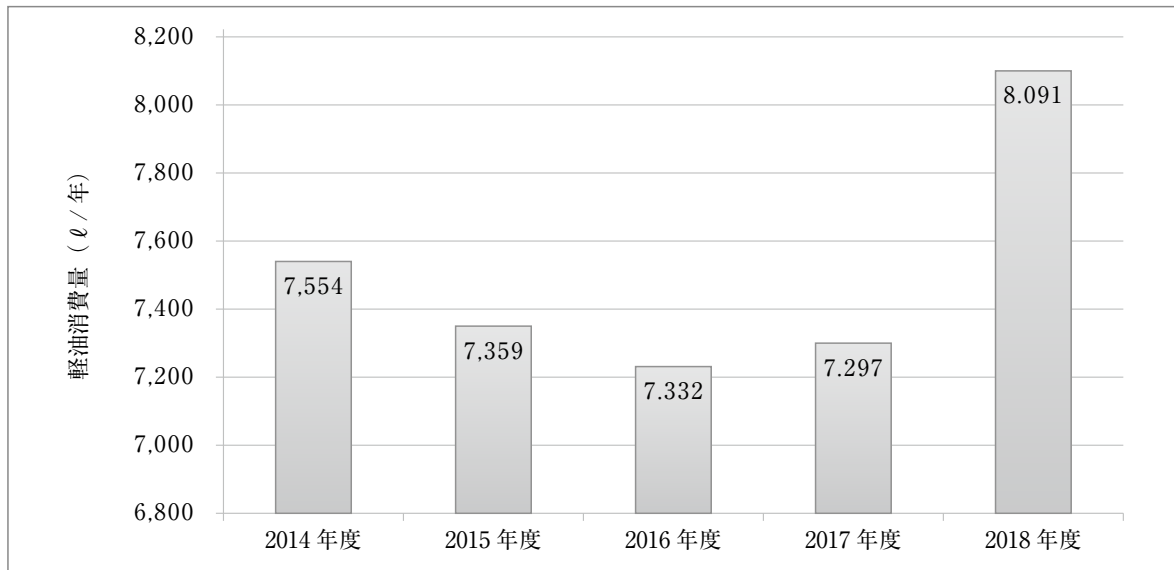
④ ガソリン消費量



ガソリン消費量の大半は大学および中高校の学生募集活動による公用車の使用によるものです。2017年度から、こまめなアイドリングストップなどのエコ運転が以前より心がけてきたため減少することができました。さらに、大学公用車を使用した募集活動のエリア設定の変更の他、公共交通機関を使った活動が大きく影響しているものと思われます。なお、2018年度のガソリン消費量8,201 ℓをCO₂排出量に換算すると、約20トン（排出係数 2.322kg-CO₂/ℓ）となります。



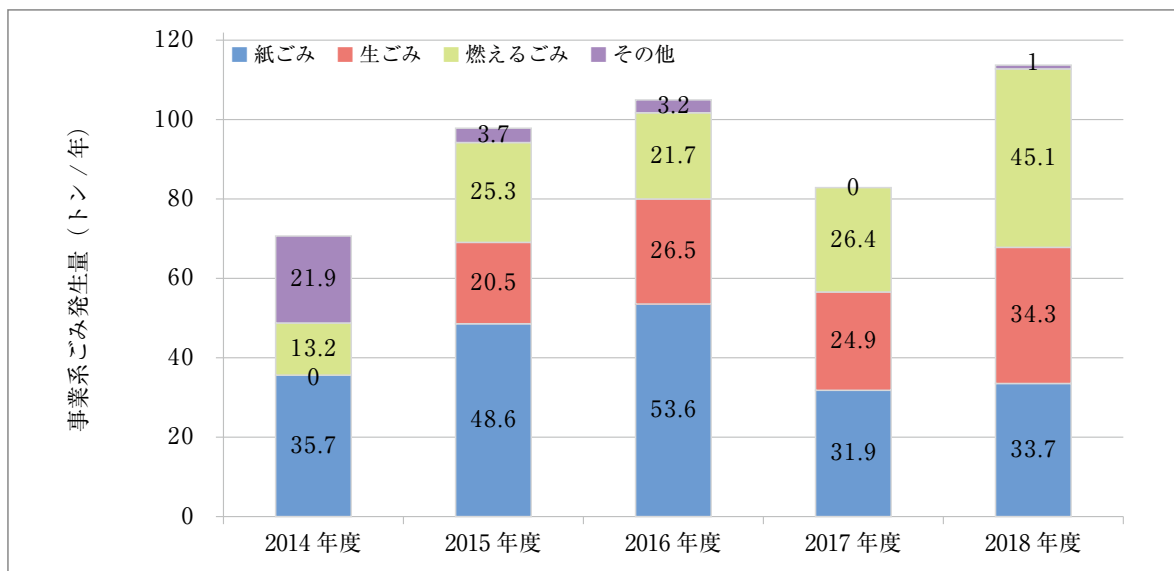
⑤ 軽油消費量



軽油消費量の大部分は幼稚園児送迎用のバス（ディーゼル車）によるものです。2018年度は前年度までと比べ大幅な増加となりました。これは幼稚園送迎エリアを拡大したことによる影響が大きいと思われます。なお、2018年度の軽油消費量8,091 ℓをCO₂排出量に換算すると、約20トン（排出係数2.619kg-CO₂/ℓ）となり、前年度と比較して、約2トン増加したことになります。

⑥ 廃棄物排出量

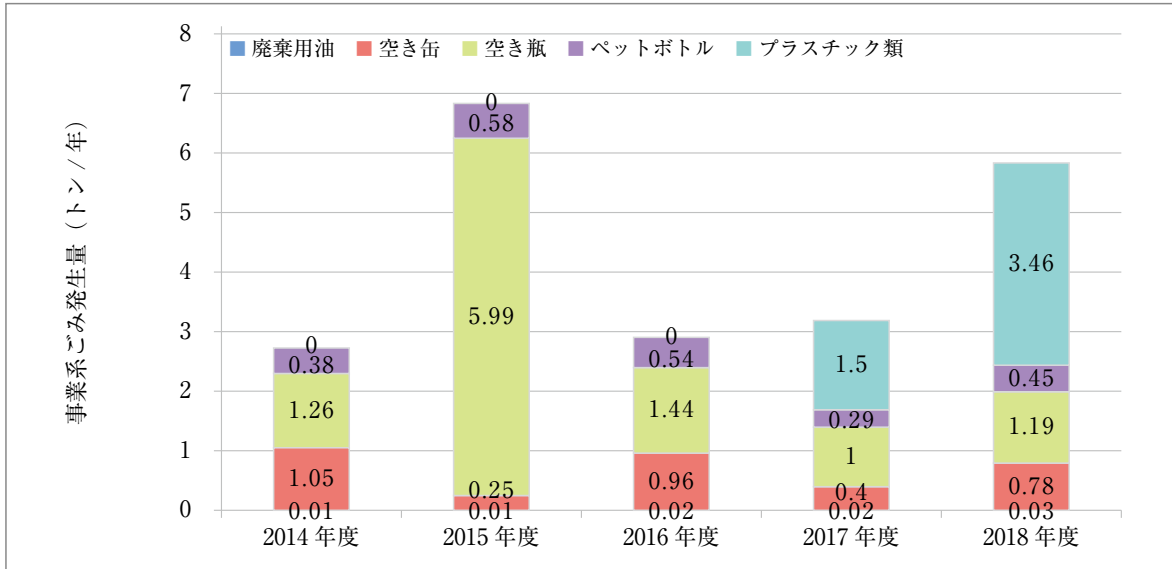
● 事業系廃棄物



2018年度は昨年度に比べて、すべての項目で廃棄物発生量が増加しています。特に燃えるごみの増加が大きくなっています。ごみ箱の内容物の中には学外にあるコンビニで購入した飲食物の容器包装類がレジ袋に入れられて廃棄されているのが目立っていたことから、さらなる分別回収の推進が望まれます。



●産業廃棄物



プラスチック類が2017年度に発生していますが、これについては、2016年度までは事業系廃棄物の「その他」の区分に含めて計上していたためです。2018年度の産業廃棄物発生量は昨年度に比べて増加しています。特にプラスチック類の増加が顕著で、年度末に実施される臨時廃棄物回収時のごみ増加の可能性があります。

5.2 KOKA エコアワード

平成22年の学園創立70周年を記念して設立されたKOKAエコアワードは、今年度で10回目となりました。この取組は幼稚園から大学・大学院までの本学園で学ぶすべてのものを対象とし、エコ活動を啓発する作品（エコアイデア部門、作文部門、標語・短歌（和歌）部門、ポスター部門、作品部門）を広く募集するものです。また、昨年度からは教職員が標語・短歌（和歌）部門にエントリー可能となり、今年度はさらに、卒業生や保護者からもエントリー可能としました。児童・生徒・学生らの作品と合わせて合計1677件の応募の中から、優れた作品に対して表彰しました。

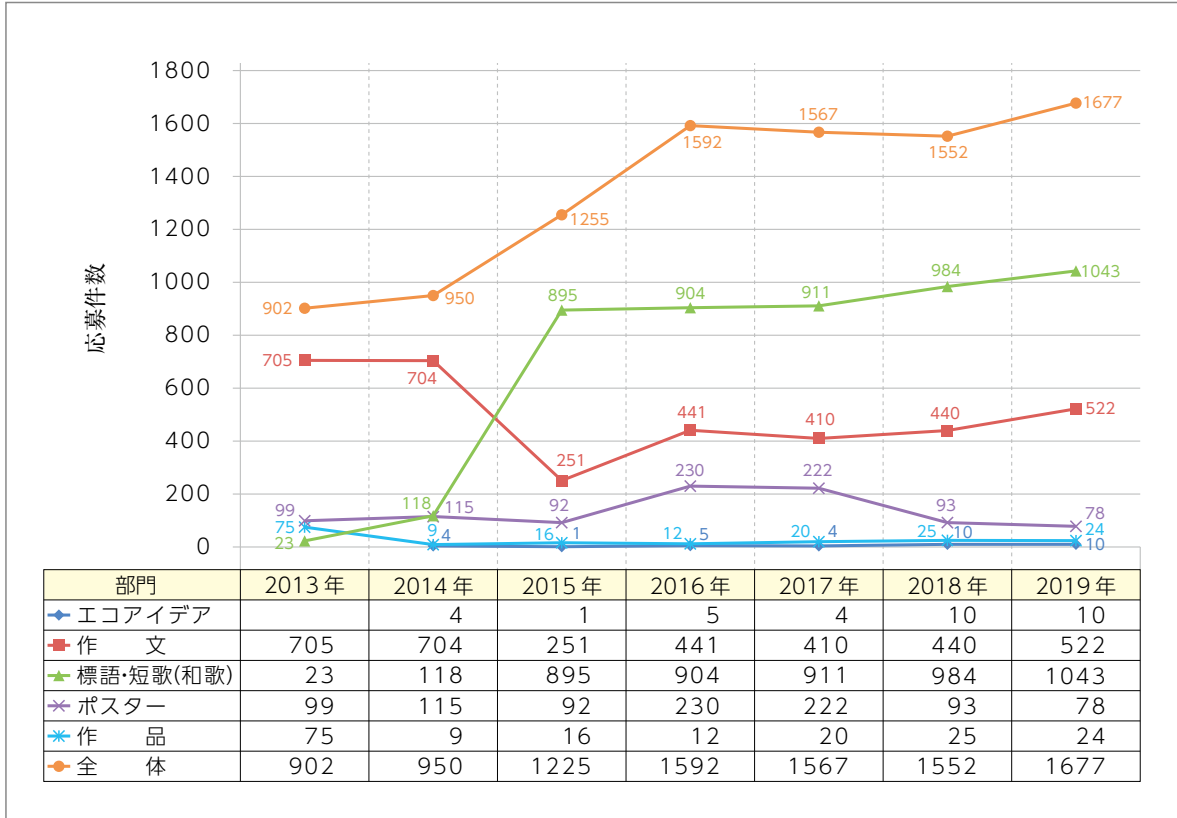
【趣旨】

「エコ」という言葉は現代社会に浸透してきたものの、「エコ活動」はまだ家庭にも社会にも浸透している訳ではありません。次代を担う学生・生徒や児童・園児たちに、美しい地球、住みよい環境を継承するため、低炭素社会の実現は現代社会が取り組むべき喫緊の課題です。本学園ではそれぞれの校園において、講義、授業、課外活動やボランティア活動を通し、学齢にあった環境教育に力を注いでおり、保護者の皆様はもとより、各方面からご理解と高い評価をいただいております。

そこでこの度、院生・学生・生徒・児童・園児の皆さんにエコ意識をさらに啓発し、私たち個々が今、何をなすべきかを考え、表現するとともに、身近なところから「エコ活動」に取り組む機会として、創立70周年を迎える光華女子学園に「KOKAエコアワード」を設立いたします。

ついては、全校園よりエコ啓発の作品を募集し、優秀作品に各賞を授与、70周年記念式典において表彰いたします。併せて、学生生徒の皆さんの実践されているエコ活動も表彰したいと考えております。当日は会場内ロビーに作品展として掲出、さらに70周年記念棟（現間光館）キャンパスモールにも展示を計画いたしております。（『学園創立70周年記念「KOKAエコアワード」啓発作品募集要項』より）

●KOKAエコアワード応募作品数の推移



●2019年度金賞受賞作品（詳細は<https://gakuen.koka.ac.jp/archives/2178>をご覧ください。）

＊＊<生徒・学生等の受賞作品>＊＊

①エコアイデア部門



受賞者 『光華環境教室』

大学 こども教育学科 栗田 佳歩／石垣 理紗／野口 美香
辻 満里奈／片桐 結香／小出 夢乃



受賞者 『光華フラワーロード』

大学 こども教育学科 石垣 理紗／米田 杏子／山本 優花
松波 志歩／桃原 奈津

②作文部門



受賞者 『未来の暮らし方』

高校 2年 渡邊 詞水

受賞者 『SDGs を実現させるために必要なことは何か』

大学 こども教育学科 石垣 理紗



受賞者 『地球を応援する』

高校 2年 藤岡 美羽



受賞者 『海洋プラスチックゼロを達成するために』 高校 1年 谷山 茉佑
『食品ロスを減らすには』 高校 1年 細見 有希
『タピオカブームとごみ問題』 大学 キャリア形成学科 田中 日菜

③ 標語・短歌（和歌）部門

スマホから視線を離して見えたのは
木々の息吹と地球の涙



受賞者
大学こども教育学科
新添 友香

氷とけペンギンたちがホームレス



受賞者
高校2年
福島 寧々

動物も人間と同じなかまだよ



受賞者
小学校3年
西村 袖乃

④ ポスター部門



受賞者
テーマ：『命を大切に』
小学校3年 松尾ももか

受賞者
『Let's Eco Activity』
中学校1年 橋本 莓花



受賞者
『身近な材料を使って...』
小学校2年 蓮尾 慈亜



⑤ 作品部門



受賞者
海の生き物
幼稚園 植松 駿



受賞者
まいにちつかうみず
幼稚園 藤尾 陽翔



銅賞
 受賞者 人魚がサメに
 食べられそうなところ
 幼稚園 中村 音寧



学園長特別賞
 受賞者 おうちであるあるこん虫標本
 小学校5年 谷 まどか

<卒業生・保護者等作品>

③ 標語・短歌(和歌)部門 *****

もったいない 未来を守る合言葉



受賞者
 大学 卒業生
 北川 郁代さん

ぼくたちが エゴからエコへ
 変わる時代



受賞者
 中学校 在校生・弟
 造田 和さん

<教職員作品>

① エコアイデア部門 *****



受賞者
 『ヨシ紙で紙ストローを作って
 プラスチックごみを減らそう!』
 小学校 教諭 原野のり子
 小学校 教諭 太中 智也



受賞者
 『光庵 ええやん エコボトル』
 大学 学務企画部 藤原 加織

<教職員作品>

③ 標語・短歌(和歌)部門 *****



写真映え「いいね」欲しさに食べ残す
 地球から「いいね」要らないの?

受賞者
 大学 就職支援センター
 石井 佐季



照明をおとして気づく月の影

受賞者
 大学 キャリア形成学科コモンズ
 藤原 佳那



いいモノを手入れしながらいつくしむ
 カッコいいとはこういうコトだ

受賞者
 大学 地域連携推進センター
 小林 薫

6. 各校園の環境教育、 環境活動



Koka Kindergarten



Koka Elementary School



Kyoto Koka Senior High School
Kyoto Koka Junior High School



Kyoto Koka Women's University
Kyoto Koka Women's College

6.1 光華幼稚園

① 野菜の栽培・収穫

園内には小さな畑があり、色々な野菜や果物を育てています。年長児を中心に、バスの運転士さんと一緒に種や苗を植えたり水やりをしたりして大切に育てています。1学期には、なす・きゅうり・枝豆・玉ねぎ・すいかを収穫しました。また、収穫したにんじん・大根は豚汁にして頂き、豚汁パーティーを開きました。玉ねぎは、お泊り保育時の夕食のカレーライスに使いました。

2学期後半には、収穫したじゃがいも・にんじんを全て子どもたちが包丁で切ってシチューにしました。



玉ねぎの収穫



ひとり1本ずつ収穫できました



こんな大玉のスイカができました



おいしいね！



自分たちで育てた野菜を包丁で切り、調理してもらって頂きます。春は豚汁。冬はシチューにしました。



培養土が入っていた袋を再利用して大根を植えました

②秋の自然を求めて

幼稚園は五条通りに面しており、交通量も多いため、自然を求めていろいろなところに出かけています。特に秋は、郊外の畑に出かけ野菜が育っている様子を見たり、大根やさつまいも、かぶの収穫をしたりしています。年中では、歩いて松尾の公園を散策します。秋空の下、友達と手をつないで元気いっぱい地面に落ちているドングリや松ぼっくりを集めたり、草むらにいる虫を見つけたりしています。子どもたちは自然の中でのびのびと遊んでいます。



ドングリみ〜つけた！！



いっぱいあるよ〜！！



大きな大根！一人で抜けるかな？



何かいるかな〜？ あめんぼやバッタを発見！！



③廃材の再利用

幼稚園では、本来ならば捨ててしまうような廃材を再利用して製作をしています。箱・牛乳パック・ストロー・トイレットペーパーの芯・プリンやヨーグルトのカップなど様々な材料を各家庭から持ってきてもらい、好きな材料を選び工夫しながらオリジナル作品を作っています。

大人にとってはごみでも、子どもの発想力で素敵な作品へと大変身します。



みんなで協力して製作しています



カップにボンドを入れて再利用!何ができるかな??



ストローを切って、どこに使おうかな?



楽しみながら製作している様子

④ごみの分別

幼稚園では、日々の保育の中でも身近な環境の大切さについて知らせています。子どもたちが日常の中でできることとして、ごみの分別に取り組んでいます。保育室には「プラスチックごみ」、「もえるごみ」の2種類のごみ箱を設置しています。毎日出るごみを意識して、友達どうしてプラマークを発見し、「これと同じマークが書いてあるから、プラごみ!」と分別して捨てています。



2種類のごみ箱を設置!



プラマーク発見!!



ほくもプラマーク見つけたー!



このごみ箱と一緒にだね!!

6.2 光華小学校

① 桂川清掃

4年生では、総合的な学習の時間を利用して、桂川清掃周辺の美化活動に取り組みました。子ども達はやる気満々です。2人1組になってごみ袋とトングを持ち、スタートしました。最初、ごみを拾う前は、「ごみは落ちていたのかな？」と不思議に思うほど、特に汚れている様子はみられませんでした。しかし、子どもたち約40名の力はすごいもので、あっという間にゴミ袋がいっぱいになってしまいました。



今から清掃活動頑張るぞー！！（ご協力いただいた地域の方のお話を聞いています。）



空のペットボトルや空き缶をたくさん拾ったよ



拾ったごみは雑誌やタバコの吸い殻が多かったな



草むらの中にもごみがいっぱいあるな…。誰だろう、ごみを捨てるのは…



30分間みんなで頑張った結果…



みんなが頑張った分だけ、桂川がきれいになりました。

～子ども達の感想～

- ・これでみんなが気持ちよく過ごすことができる！
- ・ごみはごみ箱に捨てようとして強く思いました。
- ・こんなにごみが捨てられていることがショックだった。
- ・こんなにごみが捨てられていて、ごみを捨てる人って残念だなと感じた。
- ・川の周辺がきれいになってよかった。次も頑張りたい。



②水はどのようにしてきれいになるのか

3年生では浄水場について、4年生では琵琶湖疏水について学習しました。その学びを活かし、蹴上浄水場と琵琶湖疎水記念館へ社会科見学に行きました。

蹴上浄水場では、琵琶湖疏水から京都市にどのように水が届くのかについて学習しました。また、飲み水としても使えるようにするために、水をきれいにする過程も見せてもらいました。教科書だけでは得ることのできない貴重な経験ができました。琵琶湖疎水記念館では、琵琶湖疏水がいつ、どのように、なぜ造られたのか等について学習することができました。



水をろ過する砂は、こうやって月に1度きれいに洗うんだね



すごい！琵琶湖から流れてきた水だ！！



ここでは、砂を使って水をろ過しているんだね



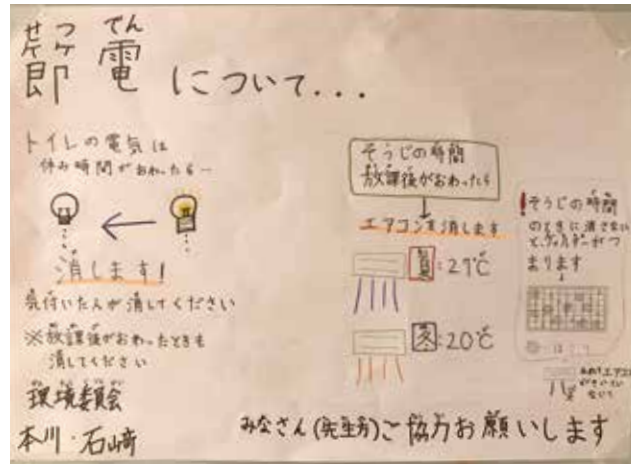
この模型を見ると、琵琶湖疏水からどうやって水が流れてきているのがよくわかるね

③環境委員会より「節電の呼びかけ」

環境委員会では、エコ活動に関する取り組みとして、自分達が学校のためにできることを話し合いました。教室移動の際の電気のつけっぱなし、トイレの電気のつけっぱなし、エアコンの温度設定などが気になるという意見が出ました。そこで、その中で節電の呼びかけができるという結論に至りました。まずは、呼びかけのポスターを作りました。一人ひとり、「どこに」、「どんな」ポスターを掲示すればよいかについて考えながら取り組みました。その後、全校児童に向けて発表しました。



どんなポスターにしようかなー



これは、教室内に貼ろう！

発表練習をしたのち、全校児童に向けて発表！



- ・エアコンの設定温度は、夏は28度、冬は20度にしましょう。
- ・教室移動の時は、電気を消してから出ましょう。また、トイレを出るとき、最後の人は電気を消しましょう。



6.3 京都光華中学校・高等学校

① 生徒会委員会 日々の取り組み

かど A 門掃き

中学校・高等学校での取り組みを二つ紹介します。中・高等学校では毎週月曜日に「門掃き」を行っています。「門掃き」は、京都独特の言葉、習慣であり、朝早くに敷地の前を掃き清めることです。生徒会の生活委員会では、「門掃き」の取り組みも、生徒中心で行えるように、「門掃きマニュアル」を作成しました。

7時50分、生活委員会の生徒が前に出て、整列・挨拶をるところから「門掃き」は始まります。班ごとに分かれ、葛野大路沿いと南門沿いの通りを



朝早くに集合します

門掃き ～感謝の気持ちを込めて～
月 日() 7:45正門に集合 リーダーは美化委員です！

- 美化委員は、7:45 正門で出欠確認をする。(班ごとに整列。班長が先頭)
- ちり1人の美化委員は7:45に教室の鍵を叩いて、班に合流する。
- 美化委員が号令をし、挨拶をする。
- ゴミ袋係の人は担任から袋をもらう。
- 地下道を通り、小学校の足下近くの倉庫から道具をとり、南門へ移動。
- 各班で動くが、回ると通行の妨げになるので、注意する。
- 所定場所の掃除が終わったら、他の班を助ける。
- すべて終われば、南門に集合→号令→挨拶→道具を片付けに行く。

挨拶をするので整列してください。これから「門掃き」を始めます。「お願いします(お願します)」自転車や歩行者に気をつけて掃除をしましょう。では、ほうきを取りに行くと書いてください。

ありがとうございます。

	1 班	2 班	3 班	4 班
ほうき				
ほうき				
ほうき				
ほうき				
はきみ・ちりとり				
はきみ・ごみ袋				

門掃きマニュアル

掃き清めます。各自、竹箒をもつのですが、今のご時世、竹箒は珍しいのでしょうか。扱いに苦戦している生徒も少なからずいますが、がんばって取り組んでいます。

B 文化祭でのごみ分別

もう一つは、文化祭でのごみの分別です。2019年度は雨天だったため、全ての模擬店が校舎内で行われることになりました。校舎内にごみがあふれることが懸念されたため、ごみの分別促進のためにここ数年取り組んでいた「ごみ箱の制限」をやめ、反対に、ごみ箱を増やす対策をしました。人が集まりやすい1階や階段の踊り場にごみ箱の数を増やし、臨時に設置したごみ箱には、分別

が分かりやすいように、カラー印刷したポスターを貼りました。ごみの分別も推進でき、混乱もなく文化祭を終えることができました。



学校周辺を清掃



ゴミ箱に貼ったポスター

② 高校KSP環境に関する研究

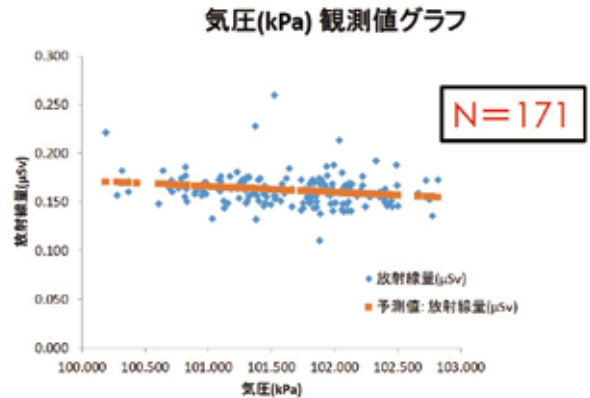
高校の特進プリムラコースではKSP（光華サイエンスプログラム）にて各種研究活動に取り組んでいます。各自が設定した課題について、実験や考察を繰り返しながら、環境問題への関心を高めつつ、未知の解を目指して日々取り組んでいます。得られた成果を内外に向けて発表し、議論を深める活動も行っています。これらの研究はSDGsの目標を意識した取り組みにもなっています。

㊦ 放射線班「Gyrorgeiger II[®]を用いた自然放射線量の測定と気象条件との相関関係」

日常のどこでも私達が浴びている自然放射線について、なにかしらの気象条件の変化に値が左右されるのではないかと考え、実際に測定した大量のデータに基づいて分析し、その関係性を導き出すことを目標としています。先輩の研究では15万個のデータをもとに、自然放射線量と気象条件との間に相関関係はなさそうだと判断がなされていました。しかし、まだまだデータ数が少ないと感じた今年のメンバーは、さらにデータを集め、信頼度の高い結果を得ようと測定を再開しました。1年以上測定を続けた結果、データ数は67万以上！分析結果は「自然放射線量と気象データの間には相関関係がない」。関係があればあんなことやこんなことが...と思っていたようで少し残念がっていましたが、関係がないとはっきりわかったことについてはとても大きな成果になりました。この成果をいくつかの発表機会にて披露し、「サイエンスキャスル2019関西大会」では優秀賞を受賞することができました。



自然放射線と気象データの測定の様子



分析結果の一例。気圧と放射線量に相関はあるのか？



ハイスクール放射線サマークラスでの発表



サイエンスキャスルで優秀賞を受賞

㊦ パセリ班「パセリスプレーチャレンジ」

パセリ班では、パセリに含まれる精油成分には除菌作用があることを活用して、天然由来成分で除菌スプレーを作ることができないかと考えました。パセリはよく廃棄されがちで、有効活用する場面がないかと考えたのもきっかけのひとつです。まずは、すりつぶしたパセリから精油成分を効率よく取り出す方法を模索するところから始まり、次に実際に除菌効果があるのか、アルコール消毒剤と比較しながら検証しました。実用化を目指しながら取り組まれたこの研究のアイデアが様々な場面で認められ、アイデアコンテスト「テクノ愛」の健闘賞や、大阪ハイテクノロジー専門学校主催「第2回実験力大会」のアイデア賞などを受賞しました。



生徒が育てたパセリ。このあと実験に使用



実験力大会での発表の様子



スタンプ実験による検証

◎ 野菜班「腎臓病患者にストレスフリーな食を」

腎臓病患者は、カリウムの摂取量に制限があり、満足以野菜を食べることができません。そこで、水耕栽培にてカリウムの量を調節したおいしい野菜を作ろうと肥料の与え方などを組み合わせながら栽培しました。成長の記録を全長や全量、カリウム濃度などから比較し、理想の野菜を育てるため、日々努力しています。この研究は「マリンチャレンジプログラム2019」に採択され、さまざまな補助を受けながら約半年かけて研究を進め、マリンチャレンジプログラム関西大会にて成果が報告されました。



水耕栽培の様子

また、研究の傍らでは多くの野菜を育て、給食のメニューの一部として生徒やオープンキャンパスの来校者に振る舞われました。



マリンチャレンジプログラムで成果披露



収穫したピーマンが食堂で振る舞われました！

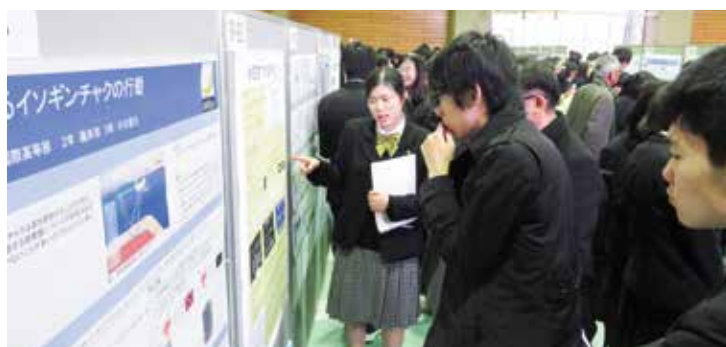
◎ 納豆班「納豆菌で水質浄化」

納豆班では、納豆菌が生成する「ポリグルタミン酸」に水質浄化作用があることを知り、実際に浄化水で育てられたピーマンが食堂で振る舞われました！

汚れた水をきれいにするのかを検証しました。身近なものでわたしたちも水質浄化できることを伝えたいと思ってこの研究は始まり、納豆菌から採取したポリグルタミン酸の量や濁度の異なる水溶液を組み合わせながら、具体的な浄化能力を探りました。研究の成果はサイエンスキャッスルにて披露しました。今後は納豆菌の種類による違いがあるのかを探りながら、水質浄化に貢献することを目標としています。



汚れを凝集させる実験



サイエンスキャッスルにて成果報告

6.4 京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部

① グリーンキーパーによる緑化活動

屋上庭園「HIKARU-CIURT」^{ヒカルコート}の維持管理を主な目的として2005年に誕生した環境ボランティアサークル「グリーンキーパー」(顧問: ともども教育学科 谷本寛文 准教授)は、現在60名の部員が日々のキャンパス内花壇のお手入れと、ピオトープのメンテナンスを中心に活動しています。夏と秋の年2回、グリーンキーパーの学生が自分のセンスを頼りに、さまざまなアレンジで寄せ植えを行います。また、西京極駅前広場の花壇(グリーンキーパーと地域の連携により平成27年度に整備されました)を整備しています。これらの活動によって、雪が降るような寒い時期でも、キャンパス内には常に明るいお花が咲いています。今年も学生が色とりどりのお花でキャンパスを彩ってくれました。また、今年度の「KOKAエコアワード」(優れた環境作品を表彰する学園行事)ではエコアイデア部門においてみごと金賞を受賞しました。受賞作品「光華環境教室」は、大学で環境問題を学ぶ学生が、併設校の幼稚園や小学校で児童や園児らに絵本などを通じて環境学習を支援するという内容です。



キャンパス内のメインストリートのお手入れの様子。自分のセンスで色とりどりの草花の寄せ植えを行う



ピオトープのメンテナンス



西京極駅前花壇にて

② 竹林整備事業への参画

大学キャリア形成学科の学生が、向日市観光イベント「竹の径(みち)、かぐやの夕べ」にボランティアとして参加しました。このイベントは15年前から、放置竹林問題を少しでも地域の方に知ってもらうために行っている向日市観光協会主催のイベントで、京都光華女子大学としては、9年前からボランティアとして参加しています。



かぐや姫に扮してイベントに貢献

竹林整備のために竹を伐採し、伐採した竹を道に並べます。そして、竹の中に水を注ぎ、そこにローソクを浮かべて火を灯すというものです。秋の夕闇に浮かぶ竹灯籠の優しい光は、何とも風流で見る人の心をうばいます。竹灯籠を並べるボランティアの他、キャリア形成学科の学生はかぐや姫になり、イベントを盛り上げてくれました。

体力も必要な大変なボランティアでしたが、実際に竹林を見て竹に触れることで、環境問題の現状をリアルに学ぶことができました。



荒廃した竹林は災害の原因に



伐採した竹を林道に並べて



竹筒に水と球状のろうそくを投入



竹灯籠に彩られた林道

③ ふろしきから学ぶエコライフ

大学リベラルアーツ教育科目「地域と環境」では、温暖化や環境汚染、廃棄物問題など世界規模での環境問題を幅広く学びます。今回、この科目の中でゲストスピーカーとして非営利団体である「ふろしき研究会」の先生方をお招きし、ふろしきの歴史や、ふろしきの応用例について、幅広くお話をいただきました。

レジ袋削減のために、エコバックをもって買い物に行く人も多くなりました。そこに「ふろしき」という京都らしい文化を取り入れることで、環境活動を楽しく継続することができます。ふろしきは、ものを包んで運ぶというイメージがありますが、ピンのような複雑な形状のものを包むことができ、工夫次第でスカーフやティッシュカバーなどにもアレンジすることができます。授業では、16色のふろしきの中から好きな色を選び、学生は指導のもとで、ふろしきからさまざまなグッズを作りました。

ふろしきが忘れ去られようとしている今、現代の生活の中で楽しみながらふろしきを活かすことを学ぶことができました。



ふろしき研究会代表 森田知都子先生



いつもの教室がふろしきでいっぱい！



受講者全員が自分の好きな色のふろしきを使って体験



一枚のふろしきから帽子を制作。作り方は同じでも結び目やひもの長さを変えることでオリジナルの帽子にアレンジ

④ 災害とリスク・コミュニケーション

キャリア形成学科専門科目「現代社会のリスクとまちづくり」では、自然災害や犯罪など、私たちの生活の中で起こりうるリスクを概観し、よりよいまちの姿について考えています。今年度、この授業の中でゲストスピーカーとして、京都新聞ホールディングスの齊藤修先生にお越しいただき、『伝えることと「伝わること」ーリスク・コミュニケーションを考えるー』と題して、ご講義いただきました。この中で、「空振りを成功ととらえるべき」という災害に対する備えの考え方について学びました。さらに、昨年度の西日本豪雨の避難率が0.33%であったことを事例に「正常性バイアス（自然災害や火事、事故、事件などといった自分にとって何らかの被害が予想される状況下にあっても、それを正常な日常生活の延長上の出来事として捉えてしまい、都合の悪い情報を無視したり、過小評価したりするなどして逃げ遅れの原因となること）」の危険性について述べられました。



京都新聞ホールディングス 齊藤修先生

⑤ ブナ原生林ツアー

最近、突然のゲリラ豪雨や数年に一度といわれる大型台風が頻繁に発生するようになりました。この被害を最小限に抑えてくれているのが森林であり、「緑のダム」とも呼ばれています。また、生物多様性の保全機能などもあり、私たちは、この森林から自然の恵を知らず知らずのうちに受けています。

今回、環境問題を学ぶ学生が、京都府南丹市芦生にあるブナ原生林の研究調査に出かけました。普段は歩きやすいアスファルトの上を歩きますが、今回は道なき道を突き進んでいきました。途中、小川にヤマメやイワナの稚魚が泳いでいるのを発見し、モリアオガエルやアカハライモリにも遭遇することができました。また、ブナの他にも自然林特有のコナラやミズナラ、ハウノキなどの広葉樹も確認することができました。また、昨年の台風被害でたくさんの木が倒れてしまいましたが、そのほとんどはスギやヒノキ等の人工林（根が浅いために倒れやすい）であることも分かりました。自然林が我々人間の生活にとっていかに重要な役割を担っているのかをリアルに体験することができました。



芦生ブナ原生林にて

Koka's Heart*

よりそい 育む
一人ひとりをしっかりと

地域連携推進センター教職員

吉田 咲子 (センター長・大学 キャリア形成学科) 加藤 千恵 (副学長/社会連携担当・大学 キャリア形成学科)
小林 薫 (センター職員) 中島 千晶 (センター職員)
中木 直子 (大学 健康栄養学科) 貞岡 美伸 (大学 看護学科)
藪添 隆一 (大学 心理学科) 南 多恵子 (大学 医療福祉学科)
和田 幸子 (大学 こども教育学科) 井川 啓 (短期大学部 ライフデザイン学科)

環境教育推進室教員

高野 拓樹 (室長・大学 キャリア形成学科) 間浦 幹浩 (中学校・高等学校)
森井 友大 (小学校) 金振 牧子 (幼稚園)

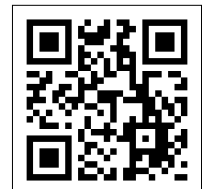
京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部 地域連携報告書
光華女子学園 環境報告書 令和元年度版

令和2年3月

編集・発行 京都光華女子大学 地域連携推進センター・環境教育推進室

〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38
URL : <http://www.koka.ac.jp/crc/> (地域連携推進センターHP)

本環境報告書へのご意見・ご感想をお待ちしております。
お問い合わせ : <http://www.koka.ac.jp/crc/contact.html>



地域連携推進センターHP



学校法人光華女子学園

京都光華女子大学大学院

京都光華女子大学

京都光華女子大学短期大学部

京都光華高等学校

京都光華中学校

光華小学校

光華幼稚園